

2015年7月17日

横浜市立青葉台中学校 学校だより 自由と規律 - 8月号

Tel 983-1062 Fax 983-7103

E-mail: y2aobada@edu.city.yokohama.jp

発行者: 青葉台中学校 校長 脇山 幸之

このお便りが届くときは、夏休み間際です。今年も皆さんが待ちに待った？夏休みです。特に暑い日が続き、また、台風が来たりと、今年は例年にまして、気候が不順で暑さ寒さなど両極端での変化になっています。まず体調管理をしっかりとやってください。

さて、よく語られていることですが、こんなに長い休み（今年は40日間です）が続くのは学生時代しかありません。だから、本当にこの休みを無駄にしないでほしい。普段の生活では、実現がしづらいことに、しっかりと挑戦してください。例えば、読書をしっかり。何かの制作物を手がける。遠くにおばあちゃん、おじいちゃんたちがいる人は訪問してしっかりとお世話になり、そこでの生活を満喫する。海外など遠くにいる友人に会う。（横浜ではできないことを体験できる人はうらやましい。）1学期に遅れた部分の勉強を克服し、それ以降それが得意だと言えるようにする。2学期以降の予習をしっかりとする、など。そして3年生は、来年進みたいと考えているところをしっかりと調べ（高校など）実際にチャンスを見つけて訪問する、そして実際の雰囲気自分に自分を置きその空気を味わう。（実物は違いますが、ネットの情報などと迫力が違います。）

いずれにせよ、まずやることは、7月18日から休みだからと言って、「基本的生活を崩さない」ことです。まあ、1日目だからいいや、今週はいいやと言って、たとえば、遅く寝て・遅く起きる、休みだからゲームを深夜1時までやろうなど、という気持ちにならない。基本的生活のパターンを崩さないで、過ごす。これは約束してください。そのことを実現して、初めて有意義な夏休みになるのです。いいでしょうか？そして約束です。終業式でも言いましたように、8月27日の2学期の始業式に、全員がけがをしないで、元気で再開できますように。良い休みを送ってください。

今月は“家康と世界の平和について”ふれてみます。

今静岡は、盛り上がっています。今年（平成27年）がちょうど「徳川家康公薨去400年」という記念の年に当たるそうです。そこで静岡では、家康公が礎を築いた「世界史上 例をみない平和国家」で「究極の循環型社会」、また「文化の成熟期」でもあった徳川時代を再考し、その知恵を未来の日本、そして未来の世界へ発信する事業として、顕彰400年記念事業を盛大に開催しているようです。駿府城を中心に通年で、様々なイベントが行われています。

家康公はやはり、世界の歴史の中でもトップの人の1人であることはまちがいないでしょう。彼もストリートスマートだったのでしょうか？私はそうだと思います。人質にとられていても、じっとその場を過ごし、いろんな局面もしっかりとこなしてきた。が、その結果、彼は、ほぼ260年にわたる江戸幕府の基礎をつくることができたのです。これが最高に素晴らしいことだと思います。なぜこれがすばらしいのか？それは世界の歴史でこんなに長く平和を継続できた時代があまりないからです。事実、皆さんも平和がずっと続いたという時代を世界史の中で考えてみてください。思い浮かびますか？生徒のみんなはまだ習っていないことかもしれませんが、いつ頃だと思いますか。まず思いつくのはローマ帝国。トラヤヌス、ハドリアヌス帝のころで五賢帝の時代です。それは実際パックスロマーナと呼ばれていますね。そのほかには清の時代の中国。康熙帝、雍正帝、乾隆帝の頃が長く、安定した時期が続いていました。そして江戸時代は世界史の中ではパックストクガワーナと呼ばれています。パックスブリタニカ、パックスアメリカーナという言葉もありますが、小さな戦争もなかった徳川時代はある意味特別な時代でした。それを作ったのが家康公です。いろんな新しいこともおこなった家康公ですが、彼の功績はほんとに安定した時代をつくったことでした。素晴らしいストリートスマートです。

皆さんもこの夏休み、そういうことのできる人に少しでも近づく努力をしてほしいなと思います。いつも言うようにまず挑戦！そしてけじめと集中が求められます。健康で乗り切りましょう。

○このコーナーではいろんな数字(データ)を記載、その数字を見て考えていただきたいのです。さーどうでしょうか？

○OECD 国際教員指導環境調査 (H25年2-3月)「学校の学習環境と教員の勤務環境に焦点を当てた国際調査」につ

いて書きます。これは調査項目として◆①教員と学校の概要◆②校長のリーダーシップ◆③職能開発(研修などの実施)◆④教員への評価とフィードバック◆⑤指導実践、教員の信念、学級環境◆⑥教員の自己効力感と仕事への満足度の6つがあります。

6月号では、教員の仕事時間について、学校の規律に関する内容で書きました。今回は ①平均的な教員像 ②平均的な学校環境 ③ 学校における教育資源 ④ 教員の自己効力感などを取り上げてみます。

1) 平均的な教員像

	参加国平均	日本
女性の割合	68%	39%
平均年齢	43歳 (平均勤続年数16年)	42歳 (平均勤続年数17年)
学歴	大卒以上91%	大卒以上96%
勤務形態	常勤82% (終身雇用83%)	常勤96% (終身雇用80%)

平均教員数	45人	24人
1学級当たり生徒数	24人	31人
指導支援職員	教員14人につき1人	教員12人につき1人
事務・経営の職員	教員6人につき1人	—
その他	教員と生徒との関係は良好	—

3) 学校における教育資源

	参加国平均	日本
資格を持つ教員や有能な教員の不足	38.4%	79.7%
特別な支援を要する生徒への指導能力を持つ教員の不足	48.0%	76.0%
職業教育(注)を行う教員の不足	19.3%	37.3%
支援職員の不足	46.9%	72.4%

2) 平均的な学校環境

	参加国平均	日本
国公私立の割合	国公立約82%私立約19%	国公立約90%私立約10%
平均生徒数	546人	357人

報告書の内容をご紹介しましたが、3)の数字が外国と日本は違いすぎています。これから読み取れることはいろんな支援を行う人の不足の率が、外国の2倍の割合で足りていないと報告されていることではないでしょうか？短絡的にはいえませんが、要は、教師の周辺を埋める仕事をする人の数が足りなさすぎることになるのでしょうか。この報告で一躍取り上げられた、「日本の教員は忙がしすぎるという部分」につながるのでしょうか？この支援員などの不足が他国より多いという結果もそれを示唆しているのではないのでしょうか？

(注：職能開発・職業教育とは、研修などを行う指導する立場にいる講師などの意味)

ついで、教員の自己効力感と仕事への満足度 について記載します。

4-1) 教員の自己効力感【教科指導について】

	生徒のために発問を工夫する	多様な評価方法を活用する	生徒がわからない時は、別の説明の仕方を工夫する	様々な指導方法を用いて授業を行う
日本	42.8%	26.7%	54.2%	43.6%
参加国平均	87.4%	81.9%	92.0%	77.4%

4-2) 教員の自己効力感【生徒の主体的学習参加の促進について】

	生徒に勉強が出来ると自信を持たせる	生徒が学習の価値を見いだせるよう手助けする	勉強にあまり関心を示さない生徒に動機付けをする	生徒の批判的思考を促す
日本	17.6%	26.0%	21.9%	15.6%
参加国平均	85.8%	80.7%	70.0%	80.3%

●日本の教員は、学級経営(先月記載)、教科指導、生徒の主体的学習参加の促進のいずれの側面においても高い自己効力感を持つ教員の割合が、参加国平均を大きく下回る。その中でも特に、「生徒の批判的思考を促す」、「生徒に勉強ができると自信を持たせる」、「勉強にあまり関心を示さない生徒に動機付けをする」、「生徒が学習の価値を見いだせるよう手助けする」など生徒の主体的学びを引き出すことに関わる事項について、参加国平均よりも顕著に低い。

(注1) 調査では、教員に対し、各項目がどの程度できているかについて質問し、「非常に良く」できている、「かなり」できている、「ある程度」できている、「全く」できていないの4項目のうち、「非常に良く」及び「かなり」できている、とした回答について、高い自己効力感を示している、と整理している。

(注2) ただし、このような結果が出た理由として、日本の教員が他国の教員に比べ、指導において高い水準を目指しているために自己評価が低くなっている可能性、実際の達成度にかかわらず謙虚な自己評価を下している可能性もある。

○ 学校閉庁日 8月12-14日

今年本校では、8月12日から14日にかけて学校の閉庁日を設定させていただきます。この間、日直もおかないため、電話をいただいても留守番電話としてお受けすることになります。ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

○ 横浜子ども会議 実施!

横浜市が、いじめを防止するための一つの活動として始めた子ども会議も3回目になりました。毎年進化していくこの会議は今年も青葉区では、7月1日、青葉区役所の会議室で開催されました。今年「ネットの使い方」というテーマでもしっかりと話し合いが持たれました。8月24日に、横浜全体での子ども会議が開催されることになっています。

○ 青葉台地域の学校家庭地域連携事業の 街と共に歩む地域づくり座談会 7月6日本校で開催されました。(青葉区社会を明るくする運動と共催!) 13日には2回目の学校運営協議会を開きました。

青葉台地域にお住いの住民や、学校関係者が児童・生徒と共に地域に関する様々な情報や考えを意見交換することで、当地域の連携を深め、地域の活性化を目指すという目的で毎年行われています。今年はそのテーマを「青葉台の魅力『子どもたちから見た青葉台・大人たちから見た青葉台』」として開催されました。

今回は総勢205名の規模で、約20名づつに分かれ小学生、中学生、町内会長の方、民生委員の方、PTA保護者、学校の先生というメンバーでしっかりと話されました。とても話しやすいテーマで活発な議論が出て終わるのがもったいないという雰囲気でした。文化的にも環境的にも優れた当地区ですが、これを維持しさらに魅力を高めていく努力が必要だが、それぞれの立場の人が協力し合いやっていかねばならないという話が出て、それが、まとめなのかなと思えました。その中で学校も核としての役割を果たさなければならない存在なんだなと私は再認識しました。

みなさんの深い想いと各種の計画を今後ともすりあわせ、タイムリーに適切な話しを行っていく必要があるんだとも感じました。今後とも当地の全員で一層素晴らしい青葉台地区を形成して行きたいな、と思います。学校運営委員会では当地区の学校で行われている学力の向上のためのプログラム、体力向上のための取組に関して意見交換をさせていただきました。

○ 学校保健委員会を開催! 7月9日 「食について学ぼう~朝食の大切さを見直そう~」

今年、朝食の大切さをテーマに各学年の保健委員があつまり勉強会からスタートしました。養護の遠藤先生から、DVDを使い朝ごはんの大切さなどの説明をきいて、皆で気を付けるためには、ということでその工夫を話し合いました。2学期に各学級で議論していき、11月10日に横浜・F・マリノスの食育講座を受講します。

○ 海外児童日本体験プログラムの国外部分が始まりしました。

6月20日、渋谷において7月21-31日に訪問する、オーストラリアでの活動の説明会に、代表とその保護者の方8組と参加しました。行動を共にする荒川区の原中8名とも交流できました。現地で行う日本紹介のプログラムを中心にカリキュラムの確認をしました。代表として立派に訪問できるように現在準備用意を行っています。と言っても、実際、21日から本校からの代表として以下の8名で、シドニーのFort Street High School、タスマニア Huonville High School に行き31日に戻ってきます。(敬称略) 引率教員: 西尾かをる、脇山幸之 2年; 岩元悠大、長野拓生、山下智輝、松浦実春、渡邊芽依、 3年; 川口隆人、新妻久実、谷亀亜沙美

* 部活動などで頑張る生徒たち (敬称略)

7月後半も試合が継続している運動系部活動; サッカー部、剣道部、テニス部 皆で応援しましょう!

+ バドミントン部 青葉区中学校バドミントン夏季大会

個人戦 シングルス 第5位 田邊魁星、石川理恵子 ダブルス 第5位 本多真実・本田彩夏

+ 剣道部 横浜市中学校剣道大会第5ブロック予選会 男子個人 第1位 加賀敬浩

+ バスケットボール部 青葉区中学校バスケットボール大会 第2位

* 生徒会の活動

* 生徒総会で決められた重点目標: 準備と努力は裏切らない。活動スローガン: 「日進月歩」です。これを意識して学校生活を送ってください。そして再掲ですが、体育祭のスローガン: 闘志なき者は去れ~30回目の本気モード~、文化発表会のスローガン: 瞬彩~この瞬間、全てを輝かせ~。

* 選挙管理委員が活動を開始しました。8月28日に公示がなされ、新生徒会の準備が始まります。活動重点テーマはここ数年取組んできている 「無効票ゼロ~公平な選挙の実現」です。真剣に考えて自分たちの代表を選びましょう。

* PTA、部活動振興会の活動 今年のスローガン: 青中に行こう! 知ろう! 楽しもう! 子どもの笑顔のために!

PTA: + 7月10日本部役員会が開催されました。スクールゾーン対策協議会、区学校保健会、区P連の活動、街と共に歩む地域づくり座談会、学校運営委員会などの報告が行われました。桜台夏祭りプロジェクト、体育祭 PTA 競技、高校説明会、などの話し合いがなされました。各種活動がより有意義になるようにみんなで力をあわせて努力していきましょう!

+ 7月11日青葉区 PTA 連絡協議会の会長・校長懇親会が行われました。各校をこえ積極的な交流が行われました。
部活動振興会: 夏の大会が行われ、結果はそれぞれですが、どの試合にも部振の理事の方をはじめとして多くの保護者の方々にも応援に来ていただきました。選手たちは力を出し切って試合を行っていました。ありがとうございます。